

令和5年10月27日(金)、11月1日(水)に名古屋市立稲永小学校5年生を対象に、社会科の自然災害を学ぶ授業の支援を行いました。授業では、現状の災害対策の紹介や、児童からの質問への回答、「ハード対策を補うにはどんなことをしたらよいか」についての児童との意見交換などを実施し、「まずは自分たちの命を守ること、そのうえで周りの人を助けること」が一番大切だということを確認しました。



自然災害の対策について意見を出し合う児童たち(11/1)

これまでの対策や流域治水について紹介(10/27)

10/27の授業を通じて下記のような質問・意見がありました。

- 伊勢湾台風が来る前に対策はしていなかった？
- ハザードマップはだれがどのように作るの？
- 川などに仕掛けてあるものや、確認していることは？
- 津波から守るために堤防を30mくらいの高さにしたらだめなの？
- 異常気象や地球温暖化がどんどん進むとどうなる？
- 流域治水について詳しく教えてほしい

11/1の授業を通じて下記のような意見がありました。

- 日本全体における災害対策(公助)を補う方法
 - SNSで国の対策を伝える
 - 流域治水についてネットや絵本、チラシ、CMなどで知らせる
 - ウェザーニュースとコラボや、アニメ化をして知らせる
- 稲永学区における災害対策(自助・共助)を補う方法
 - 地域で防災イベントをする
 - 避難場所を決めておく、避難バッグの用意をする
 - 津波避難ビルの場所を確認をする
 - 近所のお年寄りを助けに行く